

# 橋梁技術発表会 及び

# 港大橋開通50周年記念



# 講演会

参加費  
無料

定員  
350名

申込  
先着順



部	時間	内容	担当
第1部 技術発表	13:00~13:05	開会の辞	(一社)日本橋梁建設協会 副会長 川上 剛司
	13:05~13:40	① 大型試験桁を用いた金属溶射の耐久性調査 ~沖縄地区での21年目調査報告~	製作小委員会
	13:40~14:15	② ケン・ブリッチくんに行く保全工事の世界 ~難条件を種々の工夫で乗り越えろ!~	保全委員会
	14:15~14:20	休憩	
	14:20~14:55	③ ブライラ橋の建設工事報告 ~東欧最長の長大吊橋建設~	海外事業委員会
	14:55~15:05	休憩	
第2部 特別講演	15:05~15:35	① 阪神高速リニューアルプロジェクト ~100年先も安心して利用できる高速道路を~ 阪神高速道路(株) 保全交通部 保全技術担当部長 小林 寛	
	15:35~16:35	② 港大橋開通50周年 ~長大トラス橋の建設とこれまでの取り組み~ 阪神高速道路(株) 技術部シニアエキスパート(技術開発担当部長) 桐間 幸啓	
	16:35~16:40	閉会の辞	橋梁技術発表会 実行委員会 委員長 生駒 元

日時  
令和6年 **10月18日(金)**  
13:00~16:40

会場  
**ドーンセンター**  
7Fホール 大阪市中央区大手前1-3-49

申し込み  
Webサイト <https://www.jasbc.or.jp/>  
受付は令和6年9月18日~10月8日  
※申し込みは、Webサイトからのみです。

連絡先  
一般社団法人 日本橋梁建設協会 近畿事務所  
〒550-0005 大阪市西区西本町1-8-2 三晃ビル5階  
TEL.06-6533-3238

開催地区  
● 東京地区:10月 4日(金) ● 中部地区:11月 1日(金)  
● 大阪地区:10月18日(金) ● 九州地区:11月15日(金)  
● 北海道地区:10月25日(金) ● 東北地区:11月28日(木)  
(6地区開催ですが、発表テーマは異なります)

継続教育 CPDS対象  
資料配布 会場では配布いたしません。必要に応じてWebサイトより出力し持参願います。10月11日掲載予定



## 1 大型試験桁を用いた金属溶射の耐久性調査

鋼構造物における維持管理コスト低減と長寿命化を目的として、様々な防食方法が検討されているが、金属溶射も有効な手段のひとつであり、鋼道路橋塗装・防食便覧(平成17年12月 社団法人日本道路協会)に代表的な防食技術として掲載されたことにより、施工事例も増加しています。しかし、鋼橋の防食方法として金属溶射が本格的に採用されるようになってからまだ日が浅く、金属溶射の耐久性に関するデータが少ないこと、試験板を用いた促進試験が主であることが実状です。このため、(一社)日本橋梁建設協会では、(国研)土木研究所との共同で、腐食環境の厳しい沖縄地区において金属溶射の耐久性検証を目的として、大型試験桁を用いた暴露試験を2002年6月から開始しました。本報告は、暴露21年目までの調査結果について報告します。

## 2 ケン・ブリッチくんに行く保全工事の世界

既に存在する構造物を対象とする補修・補強工事は、設計においても施工においても新設にはない種々の制約を受けることとなります。主なものとしては、対象構造物のインフラとしての機能を阻害しないための施工時間的な制約、対象構造物の構造および隣接構造物などによる施工スペース、空間的な制約、既設構造物の誤差や供用後の変形なども考慮する必要があるといった設計・製作的な制約などがあげられます。

今回は、これらの制約が多く設計・施工的に非常に難条件であったものの、種々の工夫により無事施工した保全工事事例を、ケン・ブリッチくん\*の見学とあわせて紹介したいと思います。

\*ケン・ブリッチくん:特別広報委員として活動している橋建協のマスコットキャラクターです。

## 3 ブライラ橋の建設工事報告

ブライラ橋はルーマニア東部の主要都市であるブライラ市とドナウ川対岸のジジラ地区をつなぐ国道の一部で、ルーマニア国内最長、EU域内では第3位の中央径間長(1120m)の吊橋です。本工事はルーマニア初の長大吊橋になりましたが、日本の高い技術力および上下部工一式のデザインビルドの利点を最大限に活かし、構造形式や施工方法など、品質・工程・コストの最適化を図り設計および建設を行いました。本工事の特徴は以下のとおりです。

- ・主塔：コンクリート主塔の施工にスリップフォーム工法を採用。コールドジョイント低減による品質向上および24時間施工による工程短縮。
- ・主ケーブル：日本では3例しか適用事例がないものの、海外では主流のエアスピニング工法による施工。制御運転システムの研究開発による架設効率の改善。
- ・補剛桁：現地造船所での製作による環境負荷低減。架設用ストランドジャッキのモジュール化による設備の軽量化と機動性向上を実現。

### 特別講演会 講演者紹介

阪神高速道路(株)保全交通部保全技術担当部長

小林 寛

#### 講演テーマ

### 阪神高速リニューアルプロジェクト ～100年先も安心して利用できる高速道路を～

#### 【略歴】

S40年 兵庫県相生市生まれ  
H元年 阪神高速道路公団 入社  
R元年 保全交通部 交通技術課長  
R03年 建設事業本部神戸建設部 技術担当部長  
R05年 保全交通部 保全交通デジタル化推進担当部長  
R06年 現職

#### 【講演概要】

阪神高速道路は開通から50年以上が経過し「構造物の老朽化」が顕在化している。定期的な点検や日々のメンテナンスに努めているが、古い設計基準により建設された構造物等では抜本的な改善が必要であるため、2015年より「高速道路リニューアルプロジェクト」を立ち上げ、約91kmの区間において大規模修繕もしくは更新を実施している。実施においては社会的影響を極力軽減する必要があるため、取り入れられた様々な先進的技術について紹介する。

### 特別講演会 講演者紹介

阪神高速道路(株)技術部シニアエキスパート(技術開発担当部長)

桐間 幸啓

#### 講演テーマ

### 港大橋開通50周年 ～長大トラス橋の建設とこれまでの取り組み～

#### 【略歴】

S42年 奈良県五條市生まれ  
H03年 阪神高速道路公団 入社  
H27年 総務人事部 防災危機管理室 担当課長  
H28年 建設・更新事業本部 堺建設部 設計課 担当課長  
H30年 大阪管理局 保全部保全設計課 総括課長  
R02年 保全交通部 保全調整・点検課長  
R04年 保全交通部 保全技術担当部長  
R05年 現職

#### 【講演概要】

大阪府のランドマークとして知られる長大トラスモニュメント「港大橋」が完成し今年で50年を迎える。本橋は全長980mの3径間ゲルバートラス橋で中央径間長(510m)は世界第三位を誇る。高度経済成長期に日本の総力を挙げわずか4年で建設されたその情熱の足跡を映像と共に紹介する。

また、1995年に発生した兵庫県南部地震後、免震・制振技術による損傷制御設計を長大橋に初めて採用した。巨大地震に対する、この構造再生についても紹介する。

令和6年度

橋梁術発表会

大阪地区

10月18日(金)

参加申込方法



一般社団法人 日本橋梁建設協会  
Japan Bridge Association

ホームページよりお申込み下さい。

<https://www.jasbc.or.jp/>

「技術発表会」の  
申し込みはこちら。